37

拝啓

昨年は御多忙の中より拙稿之栄を得しは
本年漸く完篇の成るを得たるは非常
之覚悦と深く存候是は生涯の翻訳と思
合以外に於任せ居候様之次第に候は
今般出版之際之保證等の儀も甚だし
申兼候得共大隈出版部前途に情意
利成し被下候段深く感謝仕候
幸ひに大人之御力に依りて該書の出版を得て
雪山乃至吉凶不透の西域に旅行する雲水
の身として前途に勇猛精進せしめ給よ
御厚意を拝謝し感謝し
尚昨日の御話に依れば西蔵訳文の経典は今
書中に附録として編入致すべき様子は
故該経文は御返却之儀は御手許に留め
萬才に於ても直化に保存せる経典專ら之印
有之候に付き御手元にあるものと共に一讀に
供して任意保存し置く様御許可被下
成下度草々如斯早々頓首

三月廿日

婉雅 拝

市島大人
梧下

寺本婉雅